

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284041

研究課題名(和文) 室町～江戸初期における書物移動と大名文庫の蔵書形成に関する総合的研究

研究課題名(英文) The study on movement of books and construction of Daimyo's collection of books from Muromachi times to early Edo times

研究代表者

前田 雅之 (Maeda, Masayuki)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：00209389

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,000,000円

研究成果の概要(和文)：1333年(南北朝期)～1640年代(寛永年間)の記録類を中心とした書物の移動のデータベースを構築した。データベースは「書物の移動」「書物の伝授」「題簽・色紙・短冊・経典類の移動」に三分類し、データは「移動の発生した年月日」・「書物等の名称」・「誰から」・「誰へ」・「移動(伝授)の種類」・「依拠史料」・「史料類別」・「記録者」・「備考」等からなる。
松平文庫の創設者松平忠房の蒐集本の調査データを現在までのところ200点あまり作成した。

研究成果の概要(英文)：The construction of database on movement of books from the year 1333 to 1640 era and the date of books are based on records, documents and diaries. there are three classifications in database, first one is "movement of books", second one is "movement of books" and third one is "movement of title paper, square piece of high-quality paperboard and so on. And each date has "The date of movement" "name of books" "from who" "to who" "type of movement" "based records" "type of records" "recorder" "note". The construction of database on 200 books Matsudaira Tadafusa collected.

研究分野：国文学

キーワード：古典 古典籍 大名文庫 書物の移動 松平文庫 歌書 印記

1. 研究開始当初の背景

過去に行われた二つの科学研究(「室町期における下賜・献上・進上本の基礎的研究」、平成18~20年度、基盤B、課題番号183200、「南北朝期から江戸初期における書物に関する基礎的研究」、平成22~25年度、基盤C、課題番号22520203)によって、中世における書物移動の実態がかなりの程度把握可能となった。そうしたときに、中世の書物の移動の終着駅というべき近世初頭の大名文庫の形成が自ずと想起されたと言える。そこから、書物の移動と近世における大名文庫形成がリンクされるのではないかという問題群が立ち上がってきた。つまり、書物の移動研究の延長線上に近世大名の蔵書形成があると思われたこと、これが研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の通りである。

1. 中世~近世初期における古典的書物の移動状況を把握すること。その際、依拠資料は、日記等の記録類に限定し調査を進めた。
 2. 近世における古典籍の一大収蔵庫であった大名文庫の蔵書形成がこの書物の移動とどう関係しているかを把握すること。
- 以上二点である。

3. 研究の方法

大きく分けて三つある。

1333年~1620年代の書物移動のデータベース構築を行うこと。データの依拠史料は主として記録類に拠った。また、一度採ったデータが正確かどうかの確認作業も行った。夏・冬・春にほぼ5日間それに費やした。主として前田・渡瀬淳子で行った。詳しくは、成果である研究成果報告書に収めたエクセルデータをご参照いただきたい。各データの記載欄は、「通し番号(記載方法は、大日本史料データベースと同じ)」、「和暦・年月日」、「書名」、「誰から(書物の元所有者)あるいは(教授者)」、「誰へ(書物の現所有者)あるいは(被教授者)」、「移動の種類」、「依拠史料」、「出版社その他」、「資料類別」、「記録者」、「備考」である。「誰から」「誰へ」の中身は、「書物の移動」編と「書物の伝授」編によって変えた。これによって、単なる書物の移動ではない、知の伝授もデータベースに組み込むことができた。「題簽・色紙・短冊・経典類の移動」を加えることによって、書物の付属品およびかなりの数に及ぶ経典類もデータベースに入れることができた。

科研に関する研究会を年に二回ほど開催した。内容は1,書物の移動等に関する研究発表(各回二人、年間4人、四年間

で8人が発表した。その後、学会で発表した人も多い)2,データベースの進捗状況報告。これによって足りないところなどが把握でき、追加調査などを揚水することが可能となった。3,現地調査報告などをおこなった(次回の調査日程もここで決まった)。この研究会によって、代表者・分担者・協力者は、科学研究の問題意識を全員で共有したばかりか、研究会等を通して相互に切磋琢磨することが可能となった。協力者から、三名もが大学等の研究職を得たのは決して偶然ではない。

毎年、8月の盆過ぎに二泊(あるいは三泊)の予定で、島原市にある肥前島原松平文庫におもむき文庫形成大名である松平忠房の蒐集本(尚舎源忠房印がある)を分担者・協力者と共に調査し、データ化していった。その他、代表者・分担者は他にも熊本永青文庫(細川幽斎)、仙台の伊達文庫(伊達吉村)や臼杵の稲葉家文庫(稲葉擁通)の調査も行った。多くの大名文庫を見ることが主目的であるが、例えば、伊達文庫と松平文庫には蒐集書目として共通点が多いし、永青文庫にあってもよい、細川家ゆかりの書物が稲葉家文庫にあたりたりして、大名間のネットワークを知るよすがとなった。他の文庫はまだ調査が始まったばかりである。

4. 研究成果

3月に『室町~江戸初期における書物移動と大名文庫の蔵書形成に関する総合的研究』という研究成果報告書を刊行した。

内容は、1,研究成果報告、2,1333~1620年代の書物の移動データベース(内容的に「書物の移動」、「書物の伝授」、「題簽・色紙・短冊・経典類の移動」に分類した)約10500データ、267頁、3,肥前島原松平文庫の忠房蒐集本データ約200件、18頁、全299頁である。

書物の移動データベースについては、まだ完全に調査し終えていない史料(『蔭涼軒日録』など)があり、奥書も一部しか採っていないという瑕疵があるけれども、一応、中世の約三百年間の書物の移動、書物の伝授等は把握できたと言ってよい。言うまでもないが、かかる試みはこの科研が日本で初めてである。

他方、肥前島原松平文庫の方については、まだまだといった現状である。毎年、総勢四~五名で調査を行っているが、それでも、せいぜい各回50点くらいしか調査できないために、報告書にも200点余りしか載せられなかったからである。松平忠房が蒐集した書物の全体量はほぼ900点くらいである。よって、こちらの調査は今後も新しい科研で継続調査をすることになっている。

最後に、『書物の移動データベース』は、記録類の再チェック後、勉強出版から単行本として刊行することになっている。その際、科研メンバーによって、書物の移動をテーマにした研究論集も同出版社から刊行する所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

松本麻子「宮城県図書館伊達文庫『詠百首和歌』の翻刻と解説」(『いわき明星大学研究紀要』30、1~9頁、2017年)

内田澗子「長谷寺「銅板法華説相図」享受の様相」(『アジア遊学』208、128~140頁、2017年)

松本大「奈良大学図書館蔵『伊勢物語和歌注』翻刻」(『奈良大学紀要』45、216~190頁、2017年)

前田雅之「日本古典と大名文庫『源語秘訣』・『正広自歌合』の書写・伝来を通して」(『東奥義塾高校所蔵弘前藩古典籍調査集録』2、1~9頁、2016年)

松本麻子「宮城県図書館伊達文庫『組題飛鳥井家』『組題冷泉家』の翻刻と解説」(『いわき明星大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学編』29、11~20頁、2016年)

岡崎真紀子「『毘沙門堂本古今集注』に現れた語学的方法」(『和歌文学研究』113、2~8頁、2016年)

岡崎真紀子「『極楽願往生歌』と院政期の六波羅」(『中世文学』61、58~67頁、2016年)

渡瀬淳子「臼杵市教育委員会蔵『舟水唱歌集』翻刻」(『北九州市立大学文学部紀要』85、11~38頁、2016年)

原克昭「『日本紀の家』盛衰記・再策：吉田兼見・梵舜の家学と学芸」(『中世文学』61、18~26頁、2016年)

大坪舞「近衛前久『鷹百首』『みゆきせし』類伝本考」(『古典遺産』65、31~48頁、2016年)

前田雅之「顕と密 日本中世の基軸」(『国語と国文学』92-8、3~21頁、2015年)

松本麻子「磐城平城主内藤義概の文芸について「名所」の和歌・俳諧を中心に」(『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』12、1~11頁、2014年)

渡瀬淳子「くだものいそぎ」とは何か」(『北九州市立大学文学部紀要』84、1~14頁、2015年)

松本大「富小路俊通『三源一覽』の源氏学：「愚存」注記から見る中世源氏学の一様相」(『日本文学』64-9、13~27頁、2015年)

大坪舞「室町後期における西園寺家の鷹書類纂：立命館大学図書館西園寺文庫蔵「[鷹飼書]」考察」(『日本文学』64(12)、13~24頁、

2015年)

〔学会発表〕(計4件)

岡崎真紀子「『毘沙門堂本古今集注』に現れた語学的方法」(『和歌文学会例会、2016年6月例会』)

前田雅之「シンポジウム室町期の古典学」(『中世文学会』春季大会、2015年)

岡崎真紀子「『極楽願往生歌』と院政期の六波羅」(『中世文学会秋季大会、2015年』)

原克昭「『日本紀の家』盛衰記・再策：吉田兼見・梵舜の家学と学芸」(『中世文学会春季大会、シンポジウム室町期の古典学発表、2015年』)

〔図書〕(計13件)

松本大『源氏物語古注釈書の研究：『河海抄』を中心とした中世源氏学の諸相』(和泉書院、410頁、2018年2月)

前田雅之『保田與重郎 近代・古典・日本』(勉強出版、346頁、2017年)

松本麻子共編『連歌大観』一~三(古典ライブラリー、2015~17年)

岡崎真紀子『発心和歌集 極楽願往生歌 新注』(青簡舎、250頁、2017年)

内田澗子共著『近世寺社伝資料『和州寺社記』・『伽藍開基記』』(神戸説話研究会編、和泉書院、2017年)

原克昭編著『宗教文芸の言説と環境』(小峯和明監修、笠間書院、2017年)

前田雅之編(青山英正・上原麻有子と共編)『幕末明治 移行期の思想と文化』(勉強出版、512頁、2016年)

前田雅之「大名文庫形成試論 大名はなぜ古典籍を集めたか」(井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』、べんせいふつぱん、235~256頁、2016年)

渡瀬淳子『室町の知的基盤と言説形成』(勉強出版、392頁、2016年)

松本大「『原中最秘抄』の性格 行阿説への再検討を起点として」(福島金治編『学芸と文芸』、生活と文化の歴史学9、竹林舎、228~257頁、2016年)

前田雅之『古典論考 日本という視座』(新典社、430頁、2014年)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 雅之(明星大学・人文学部・教授)
(MAEDA Masayuki)

研究者番号：00209389

(2)研究分担者

松本 麻子(いわき明星大学・教養学部・准教授)

(MATSUMOTO Asako)

研究者番号： 70708990

岡崎 真紀子(奈良女子大学・文学部・准教授)

(OKAZAKI Makiko)

研究者番号： 30515408

渡瀬 淳子(北九州市立大学・文学部・准教授)

(WATASE Junko)

研究者番号： 90708637

(3)連携研究者

(0)

(4)研究協力者

()

内田 澪子(お茶の水女子大学・グローバルリーダーシップ研究所・研究協力員)

(UCHIDA Mioko)

原 克昭(立教大学・文学部・特任助教)

(HARA Katsuaki)

高津 喜和子(渋谷教育学園・教諭)

(TAKATSU Kiwako)

神林 尚子(鶴見大学・文学部・専任講師)

(KANBAYASHI Naoko)

松本 大(奈良大学・文学部・専任講師)

(MATSUMOTO Ooki)

大坪 舞(佐世保高等専門学校・専任講師)

(OOTSUBO Mai)

荒川 真一(日本大学文理学部・人文学研究所・研究員)

(ARAKAWA Shinnichi)